

いわき市総合防災訓練において小型モビリティを用いた津波避難訓練を行いました (2024/11/16)

テーマ： 小型モビリティ、津波避難訓練

会場： いわき市四倉地区

URL：<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1728968527219/index.html>

2024（令和6）年11月16日（土）いわき市の総合防災訓練において、東北大学災害科学国際研究所との「防災に掛かる連携と協力に関する協定」に基づき、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）と齋藤玲助教（認知科学研究分野・情報科学研究科）及び鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が防災訓練の実施支援を行いました。

今回の訓練は、三陸沖を震源とするマグニチュード9・0の地震が発生したという想定で行われ、1565人（うち市民870人）が参加しました。このうち同市の四倉地区において、トヨタ自動車との連携で最高時速6キロの電動小型モビリティ6台を用意し、シニア世代の参加者が運転して、避難場所までの公道約1キロを実際に移動する訓練を行ったものです。電動小型モビリティは、運転も簡単で安全性にも様々な配慮がなされており、運転免許が不要でヘルメット着用義務もなく、免許を返納した後や、歩くのが辛くなった高齢者の買い物や通院などで普段使いを便利にして外出を促すと共に、災害時の避難にも有効な移動手段になり得る期待が持たれています。小型モビリティを実際に活用した避難訓練は東北地方では初の試みであり、また、避難訓練後に同地区の南団地集会所駐車場で行われた試乗会では多くの市民が搭乗して、運転の簡単さや便利さを確認しました。

また、本防災訓練では、FC（水素による燃料電池）自動車による給電のデモンストレーションも併せて実施し、災害で停電した場合の避難所の環境改善に役立つことをPRしました。これらの訓練やデモの様子は、地元の報道機関で取材、報道されています。

当研究所では今後も、「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」を目指して取り組んでいるいわき市の防災訓練の支援を続けていきます。



前日のリハーサルで小型モビリティの
説明を受ける参加者



FC自動車による給電デモと
取材を受ける齋藤助教

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）